

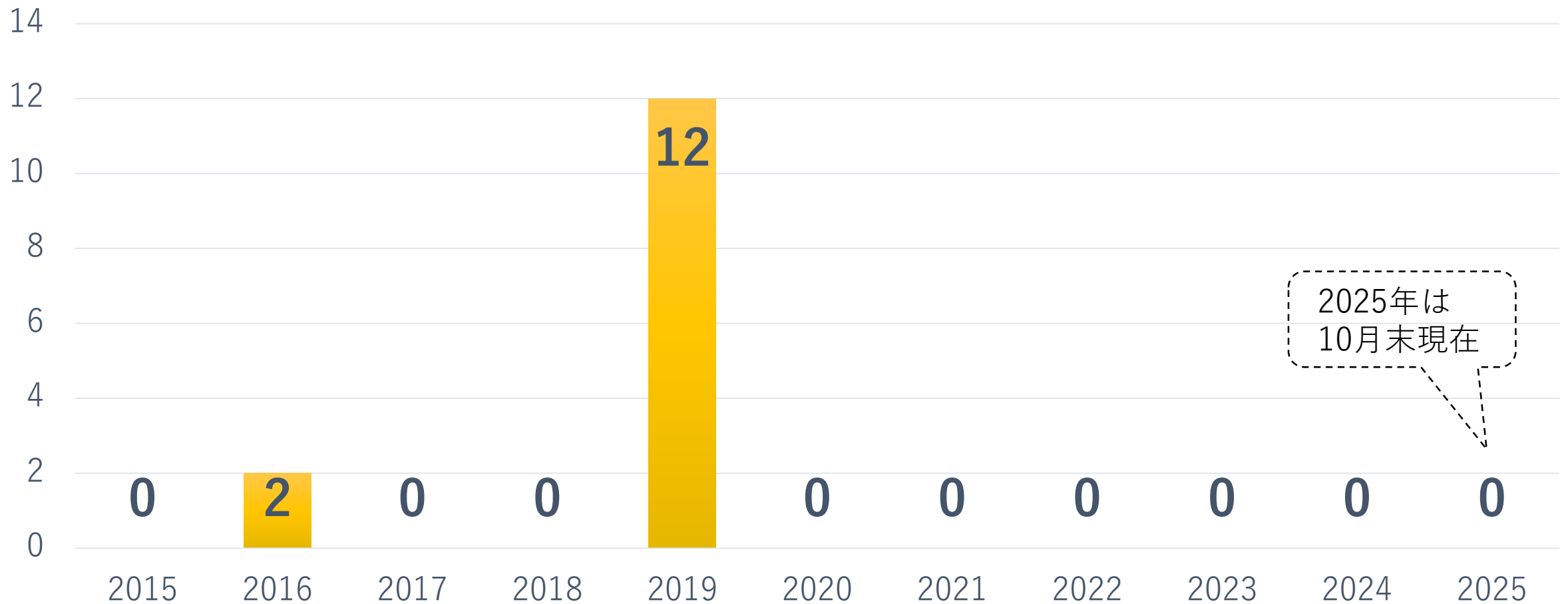
2025年度（令和7年度） 感染症健康危機に備えた対応訓練

～市内で麻しんが発生した場合の対応～

福山市保健所保健予防課

福山市の麻しん発生状況

麻しん患者数



麻疹流行状況【市】

- 福山市HP「麻疹（はしか）に気をつけましょう！」
- 福山市HP「福山市内の感染症発生状況」

麻疹（はしか）に気をつけましょう！

[シェアする](#)

[Post](#)

[印刷用ページを表示する](#)

掲載日：2025年10月17日更新

麻疹とは

麻疹ウイルスによって引き起こされる急性の全身感染症です。

麻疹ウイルスの感染経路は、空気感染、飛沫感染、接触感染で、その感染力は非常に強いと言われています。免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症し、一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われています。また、麻疹ウイルス

福山市内の感染症発生状況

[シェアする](#)

[Post](#)

[印刷用ページを表示する](#)

掲載日：2025年10月30日更新

一類・二類・三類・四類・五類感染症（全数把握）の発生状況

- [2025年（1月～9月）感染症の発生状況 \[PDFファイル/34KB\]](#)
- [2024年（1月～12月）感染症の発生状況 \[PDFファイル/158KB\]](#)
- [2023年（1月～12月）感染症の発生状況 \[PDFファイル/142KB\]](#)
- [2022年（1月～12月）感染症の発生状況 \[PDFファイル/76KB\]](#)
- [2021年（1月～12月）感染症の発生状況 \[PDFファイル/82KB\]](#)

医療機関での麻疹対応ガイドライン 第七版

国立感染症研究所 感染症疫学センター

平成30年5月

事例

- A国から2週間前に帰国したBさんが、発熱があるため、11/16 休日診療のCクリニックを受診し、コロナとインフルエンザの検査を受け、いずれも陰性だった。
- 11/19発熱が続いており、発疹も出てきたため、Dクリニックを受診した。



質問1

発熱、発疹が出現している場合、疑われる疾患はどのようなものがありますか。



解説1 発熱と発疹から疑われる疾患例

- 麻しん・風しん
 - デング熱
 - ジカウイルス感染症
 - チクングニア
 - エムポックス
 - 日本紅斑熱
- など

【参考】一般社団法人 日本感染症学会ホームページ
症状からアプローチするインバウンド感染症への対応

The screenshot shows the website of the Japanese Association for Infectious Diseases (JAID). The main navigation bar includes the JAID logo and the text '一般社団法人 日本感染症学会 The Japanese Association for Infectious Diseases'. The main heading is '症状からアプローチする インバウンド感染症への対応 感染症クイック・リファレンス'. Below this, there are four menu items: '症状からアプローチする インバウンド感染症への対応', '国際的マシギャザリングに関連したワクチン', '薬剤耐性菌', and 'インバウンド感染症の感染対策'. The current page is '発熱+皮疹', with a breadcrumb trail: 'Home > 症状からアプローチするインバウンド感染症への対応 > 発熱+皮疹'. The page is updated as of April 13, 2025. The main content area is titled '症状からアプローチするインバウンド感染症への対応'. Under the sub-heading '発熱+皮疹', there are two columns of disease categories: '東南アジア、南米' and 'アフリカ'. The '東南アジア、南米' column lists 'ジカウイルス感染症', 'チクングニア熱', 'デング熱', and 'リケッチア症'. The 'アフリカ' column lists 'アフリカ紅斑熱' and 'エムポックス'.

①クリニックを受診



① クリニック受診 受付

受付で、本日の受診理由と症状を聞く。

妻は、「3日前から発熱し、休日にCクリニックで診てもらったけれど、よくなり、体に斑点が出てきました。先月帰国した時に乗った飛行機に麻しんの人がいいたらしいです。」と話す。



質問2

受付で患者の妻から、麻しん患者と接触の可能性があるという情報を把握しました。

この時に受付はどちらの対応が望ましいでしょうか。

- ① 速やかにあらかじめ決めていた経路を通り、個室（可能な場合は陰圧室）に誘導する。
- ② より詳細を報告するため、このまま必要な問診を続ける。

解説2

正解は①です。

- ・ 麻しんは1例出たらすぐ対応！
- ・ 3分間空間を共有した場合でも感染・発症の可能性有！



《ポイント》

- ・ 別室に誘導し**個室管理**する。（可能な場合は陰圧室）
- ・ **他の受診者とは接触しない出入口**とする。
- ・ できる限り**受診前に電話等で受診方法を相談**してもらうことが望ましい。
- ・ その他の受診者と接触を避けるため、**具体的な受診方法（受診体制、受診経路、到着時の連絡方法など）を指定**する。

①クリニック受診 受付→個室誘導

《注意点》

- ・あらかじめ**決められていた動線**を通り、患者を個室へ案内する。



① クリニック受診 受付→個室誘導→医師へ報告

受付事務から「A国から帰国したBさんが、発熱、発疹の症状を訴え、来院している。現在、個室で待機してもらっている」旨を報告。



① クリニック受診

受付 → 個室誘導 → 医師へ報告 → **問診票記入**

《問診者防護》

N95マスク

窓開け換気も！

HEPAフィルターの利用も効果的！



質問3：麻しん疑いの患者への問診内容で必要な項目は？

解説3

問診内容

- ☑基礎疾患
- ☑臨床症状とそれらの初発日
- ☑これまでに受診した医療機関
- ☑1歳以上で受けた麻疹含有ワクチンの接種歴
- ☑家族の麻疹罹患状況・麻疹含有ワクチンの接種歴
- ☑集団生活の有無
(保育所・幼稚園・学校・塾・習い事、寮等)
- ☑勤務先 (アルバイト先を含む)
- ☑発症前1か月の行動 (海外渡航歴・国内旅行歴・人が多く集まる場に行ったことがあるか)
- ☑発症後の行動

予防接種歴は必ず
記録で確認！



問診で把握した内容

- ☑Bさん 30歳男性
- ☑基礎疾患：糖尿病
- ☑職業：会社員
- ☑症状：発熱（11/16～）、発疹、鼻汁、咳嗽
- ☑2週間前までA国に出張で滞在していた。
- ☑麻しんワクチン歴：1回
- ☑家族で罹患歴のある人はいない。麻しんワクチンを妻は受けているが、子は受けていない状況。
- ☑発症後は、自宅で過ごしていた。
- ☑11/16に休日診療のCクリニックを受診。

① クリニック受診

受付→個室誘導→医師へ報告→問診票記入→**診察**

《診察時の防護》

N95マスク

フェイスシールド

(※患者と至近距離で接するため)

《医師の診察の結果》

①麻疹に特徴的な発疹

②発熱

③咳嗽・鼻汁（カタル症状）

をすべて満たし、麻しん疑い患者となる。



【麻しん届出基準】

疑い例でもすみやかに発生届を！
後で取り下げができます。

- ア 届出に必要な臨床症状の3つすべてを満たし、かつ届出に必要な病原体診断のいずれかを満たすもの。（検査診断例）
- イ 届出に必要な臨床症状の3つのすべてを満たすもの。（臨床診断例）
- ウ 届出に必要な臨床症状の1つ以上を満たし、かつ、届出に必要な病原体診断のいずれかを満たすもの。（検査診断例）

◎届出に必要な臨床症状

- ア 麻しんに特徴的な発疹
- イ 発熱
- ウ 咳嗽、鼻汁、結膜充血などのカタル症状

◎検査材料

血清：抗体の検出

（**IgM抗体の検出**）

（ペア血清での抗体陽転又は抗体価の有意の上昇）

症状出現後4～28日の期間
の場合は医療機関で実施。

②保健所へ連絡



医師

(福山市保健所保健予防課へ電話。)
症状から**麻しんが疑われる患者**がいる。
どのように対応すればよいでしょうか。

- ・ 患者の住所、名前、生年月日、性別、職業（所属先）、連絡先
- ・ 症状と症状出現日（発熱、発疹、カタル症状）
- ・ 麻しん患者との接触歴
- ・ 国内旅行歴（とくに流行地）、海外渡航歴
- ・ 麻しん罹患歴、麻しん含有ワクチンの接種歴を教えてください。

(可能な限り、親子健康手帳での確認を)
所内で協議後、折り返し連絡をします。



保健所

③保健所からの説明



医師からの報告を聞き、麻疹が強く疑われる状態と判断したため、臨床診断例として**直ちに**発生届の提出をお願いいたします。

①麻疹の発生届を「**感染症サーベイランスシステム**」または、「FAX (084-921-6012)」で提出。

②血清**IgM**抗体検査の実施。

③PCR用検体（**咽頭拭い液**、**EDTA加全血2ml以上**、**尿10ml**）の採取と「感染症検査票」の記載。

咽頭拭い液の検査キットは保健所から持ち込む。

④保健所から連絡が入ることを患者へ伝える。

①～④のご対応をお願いします。

発生届が保健所に届き次第、対応を開始します。

分かりました。

発生届の提出、

PCR用検体、感染症検査票の準備をしておきます。

血清IgM抗体検査は検査機関へオーダーしておきます。



医療機関に準備いただくもの（3点）

①発生届

臨床診断例については、届出後であっても、血清抗体価の測定を実施するとともに、所在地の地方自治体に検体提出し、その結果について最寄りの保健所に報告していただき、検査結果等を総合的に勘案し、麻しんでないと判断された場合は届出の取り下げ等のご協力いただけますようお願いいたします。

別記様式 5-23

麻 し ん 発 生 届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名 印

発生届は福山市HP「感染症発生時に医師が行う届出について」からダウンロードできます。

②検査票

様式1 保健所受付年月日（ ） 保健環セ受付年月日（ ） 検体ID

一類～五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票（病原体）

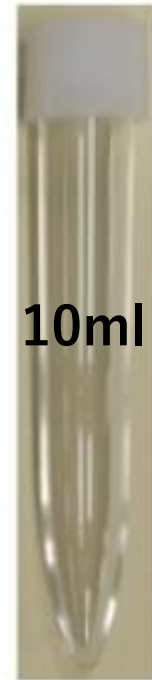
【主治医等記載欄】

医療機関名	主治医等医師名(記載者)	科
氏名 (カタカナで記入)	(男・女)	患者ID
居住地域 市・郡 町	年齢 才 ヶ月	
発病年月日 年 月 日	受診年月日 年 月 日	入院の有無(有・無)

③検査キット (尿、EDTA加全血)

尿

血液



10ml



2ml以上

保健所が準備するもの

検査キット (咽頭拭い液)



《万が一の場合》

滅菌スピッツ (15ml)

滅菌綿棒

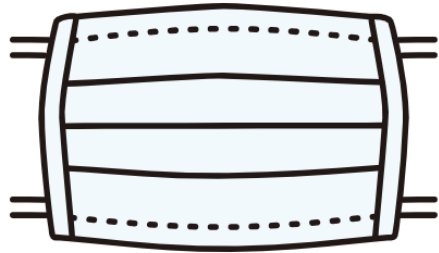
滅菌生理食塩水 (少量)

で咽頭拭い液検査キットの代用が可能。

検査キットへの移し替えは不要。

質問4

検体採取時の個人防護具としてどのようなものを着用するとよいか。



☞ 次のスライドで解説をします。

④クリニックでの検体採取（咽頭ぬぐい液）

《検体採取時の防護》

N95マスク

フェイスシールド

手袋

☞ 検査後はすみやかに
車内での待機を伝える。

☞ 個室が確保できない
場合は、**車内**で実施。



検査キット

(咽頭拭い液)



⑤PCR用検体 (咽頭拭い液、EDTA加全血、尿) の回収

PCR用検体、発生届（原本）、感染症検査票、
(※血液検査結果) を保健所職員が回収する。

《検体保存方法》

- ・ **4°C以下（冷蔵）** で保存。

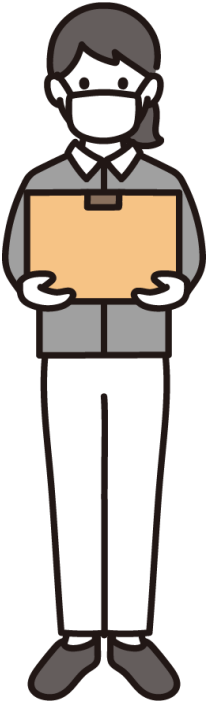
※全血もしくは血清分離されていない血液は、溶血するので冷凍してはいけない

《尿検査》

- ・ 発疹出現後8日以上経っている場合でも、麻疹ウイルス遺伝子は比較的長期に検出される

⑥保健所が広島県保健環境センターと調整

広島県保健環境センターへ搬入場所と時間を確認後、
すみやかに広島県保健環境センターへ持ち込む。



⑦保健所より患者へ疫学調査実施

保健所職員より、患者に次の①～⑤のことについて、説明および調査を実施。

- ①保健所の役割の説明
- ②健康調査
- ③行動歴（公共交通機関、遊戯施設、商業施設等の利用）期間、同行者
- ④接触者の確認
- ⑤麻疹とは、及び生活上の留意点
- ⑥情報提供に関する同意

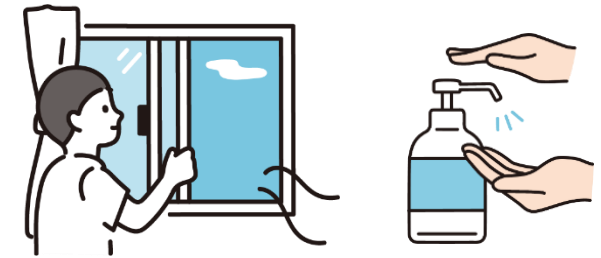
※保健師はN95マスク着用。

※医療機関の個室、本人宅等にて調査を実施。



患者滞在箇所の使用再開について

- 患者が空間から離れた後**少なくとも1時間（最大2時間）**以内は麻しんウイルスが浮遊していると考えられる。陰圧室使用の場合も同様。



- **換気**をする。

- **特別な消毒は必要ありません**が、麻しんウイルスは、エンベロープを持つウイルスであるため、消毒薬が有効です。環境衛生や手指衛生はエタノール等の消毒液が有効である。

- 陰圧室再開前には、陰圧室の空調システムが正常に機能し、適切に陰圧が維持できているか確認が必要。

⑧ (保健所) 初動について協議



- (1) 疫学調査結果の情報共有
- (2) 接触者調査の範囲、緊急ワクチン接種の検討
- (3) 対応職員と役割分担の決定

⑨結果連絡 (保健環境センター→保健所→医師→Bさん)

当日または翌日

麻しんウイルスの
遺伝子検査の結果、
「陽性」でした。

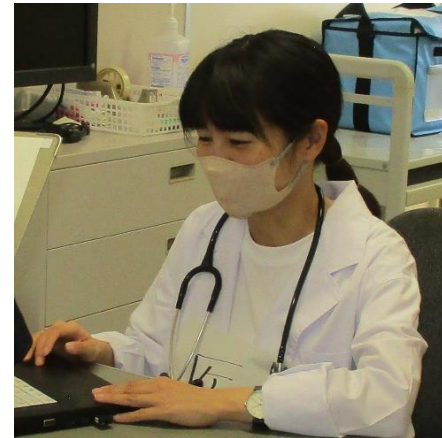
のちに保健所から接触者調査
のため連絡があります。



①



②



③



保健環境センター

保健所

医師

Bさん

本人への説明内容

●入院の場合

- ・ 空気感染をする疾患のため、個室（陰圧室）での入院となる。
対応可能な病院へ転院する可能性がある。

●自宅療養の場合

- ・ 感染可能期間内（麻しん発症前1日～解熱後3日を経過するまで）は可能な限り他者との接触は避ける。
- ・ 公共交通機関や人が集まる施設を利用しない。
- ・ 受診の際は、あらかじめ連絡してから受診する。
- ・ 帰宅後も病状把握のため、解熱日を確認する必要がある。

予防接種未接種のこどもに対する対応

●こどもに関する情報収集

生年月日、基礎疾患の有無、他の予防接種履歴、かかりつけ医、症状の有無、保育施設等の利用状況

◎小児科と連携をします！

●乳児に対する緊急ワクチンの実施について

- ・ 0歳児の場合、生後6か月未満の乳児は接種を行わない。
- ・ **生後6か月以上1歳未満**で接種を希望する場合は、麻しん流行時の緊急避難的な場合のみ接種可能。ワクチンが使用できない場合は、筋注用免疫グロブリン製剤によって軽症化を期待できる場合がある。

(参考：JIHS 国立健康危機管理研究機構 麻しんQ&A麻しんワクチンについて)

緊急感染対策委員会の開催



- 「一人発生した時点で」臨時に緊急感染対策委員会を開催する。
- 麻しん（疑い）患者が感染拡大予防策を講じない状態で、外来受診した場合、あるいは入院後麻疹と診断された場合、及び院内感染が判明した場合は、速やかに施設長に連絡するとともに、ICTあるいはそれに準じる組織、あるいは感染対策の担当者による対応方針を決定する必要がある。

≪協議事項（例）≫

- 接触者（入院患者、外来患者、付き添い家族、職員等）への対応
- 麻しん感染対策について 等

緊急予防接種の準備



- ワクチン未接種者で**接触3日以内**であれば、緊急予防接種（原則MRワクチン）が有効。
（本人に必要性を十分理解いただいたうえで）
- 妊婦、免疫抑制状態にある者は禁忌。
- 定期接種外のため、実費での接種となる。
- 医師の判断により、こどもの未接種者で接触4～6日後の場合、筋注用免疫グロブリン製剤の投与を行うケースも考えられる。
（本人及び保護者に必要性を十分理解いただいたうえで）

※詳細は「麻疹含有ワクチン接種のガイドライン」（国立感染症研究所 感染症疫学センター平成31年4月）を参照。

(参考) 麻疹陽性判明後の保健所の動き

⑩麻疹発生の情報提供

(県及び保健環境センター、四医師会及び感染症委員会委員)

⑪接触者調査の実施

⑫接触者の健康確認

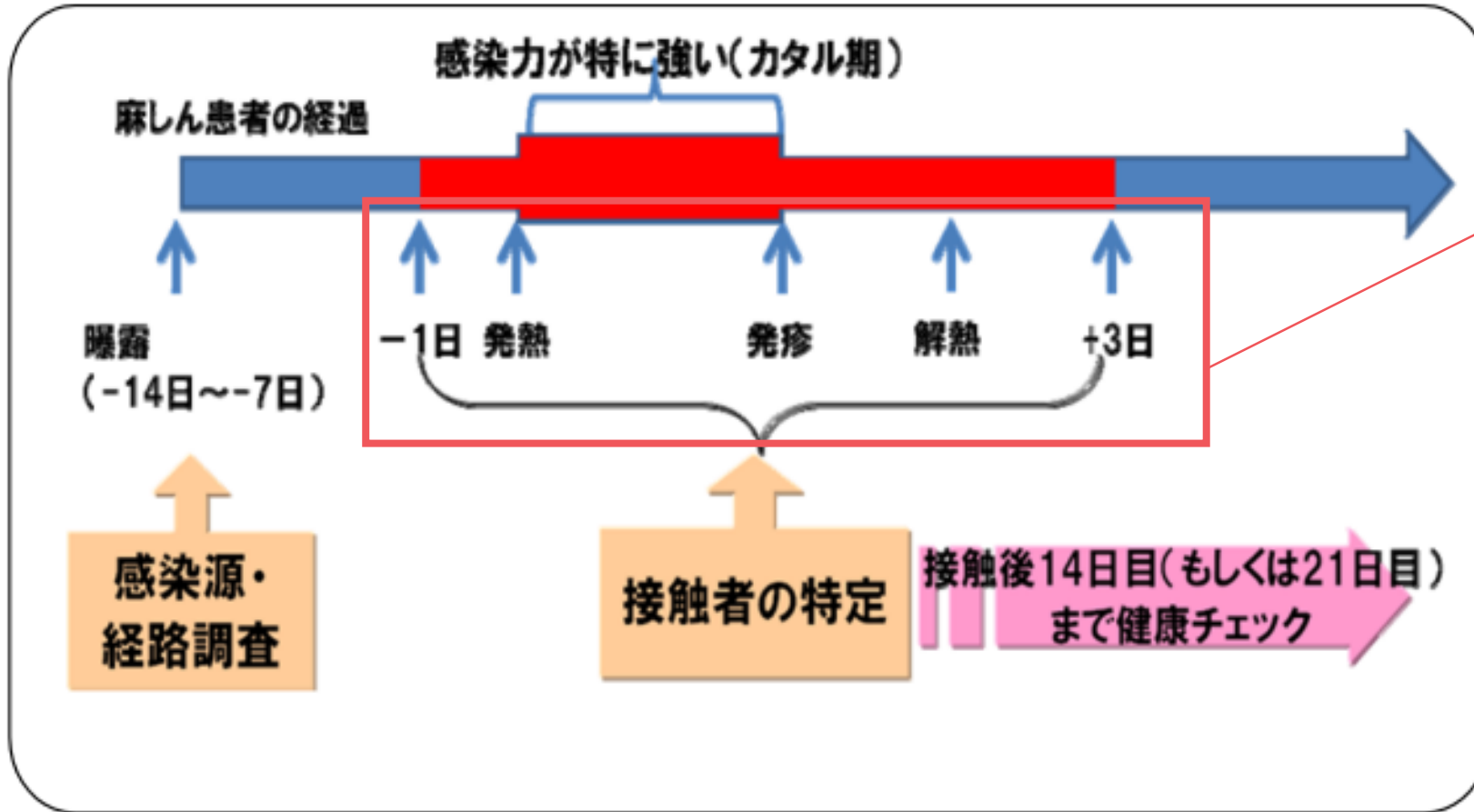
⑬接触者から受診希望があった場合の調整

⑭接触者の健康観察

⑮所内報告会 (最終)

終息：麻疹患者との最終接触者発生から4週間、新たな麻疹患者が発生しなかった場合。

接触者調査について



感染可能期間

→麻疹発症1日前より解熱後3日間まで。

接触者

- 感染可能期間内に麻疹患者と接触した者。
- 飛沫感染可能な範囲内(2m以内)で患者の咳、くしゃみ等飛沫を浴びた者。
- 患者から離れていても同一の時間に空間を共有した者。
- 患者がその空間から離れた後少なくとも1時間(最大2時間)以内にその空間に滞在した者。

【出典】「麻疹発生時対応ガイドライン〔第二版：暫定改訂版〕 P11
2016年6月3日国立感染症研究所感染症疫学センター

麻しん接触者リストの作成

連絡がつかない接触者への対応

- ・電話連絡が難しい場合は、郵送やFAX等他の連絡手段を試みる。

年 月 日 診断 麻しん患者の接触者

健康観察終了日: 月 日 ()

病院外来患者 月 日 ()

対応日時	対応受付番号	名前	ふりがな	生年月日	年齢(月齢)	住所	電話番号	電話相手方	同伴者有無(下記)	体調	罹患歴	予防接種歴	説明時状況(心配内容, 質問事項など)	備考(電話可能時間帯など)
/ 時 分	1										有 無	有:1回・2回 無・不明		
/ 時 分	2										有 無	有:1回・2回 無・不明		
/ 時 分	3										有 無	有:1回・2回 無・不明		
/ 時 分	4										有 無	有:1回・2回 無・不明		
/ 時 分	5										有 無	有:1回・2回 無・不明		

医療機関から接触者に対して
事前に麻しん患者と接触があった旨と保健所へリストの内容を情報提供することの説明をお願いします。

質問5：本日の内容を踏まえ、
事前にそれぞれの医療機関でどのような
準備が必要でしょうか。

平時からの準備が最も重要です！



1. 職員・実習生への対応

- 職員（実習生含む）の麻疹含有ワクチンの接種歴や罹患歴の確認
 - 記録に基づく履歴確認
 - 必要回数（1歳以上で2回のワクチン接種）の接種歴の記録を本人と医療機関双方で保管する
 - 罹患歴がある職員は抗体価測定
- 接種歴、罹患歴が確認できないものはワクチン接種を推奨



医療従事者において抗体価・抗体値測定が推奨されているもの

麻しん・風しん・流行性耳下腺炎・水痘・B型肝炎・C型肝炎

平時からの準備が最も重要です！

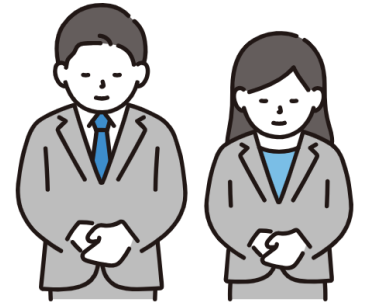


2. 院内マニュアルの作成/充実

- 隔離部屋の事前決定、確保
- 動線の事前決定、確保
- 問診票や説明内容の作成
- ポスターあるいは掲示での注意喚起
(発熱、発疹等ある時は来院前に相談をしてもらうこと)
- 院内の情報共有方法の確認
(感染拡大予防策、対応人員の確保方法をあらかじめ決定し、院内での迅速な情報共有・伝達手順を定めておく。)
- スタンダード・プリコーション（標準予防策）の徹底

など

医療機関の皆さんへお伝えしたいこと



- 届出要件にあたる場合は、直ちに「発生届」の提出をお願いします。
- 罹患歴及びワクチン接種歴は、親子健康手帳等の記録で確認を。
- 麻しんは感染症法上5類感染症であるため、行動制限等は発生しません
が、仕事の復帰は、患者の所属先と相談し決めていただくようになります。
- 受付事務、看護師、医師のみならず、周りの患者も接触者となりうる
ため、接触者リストのすみやかなご提出をお願いします。その後保健
所が、最大21日間の健康観察を実施します。
- 来院しての相談ではなく、事前の電話相談ができる体制にしましょ
う。

参考資料



- 医療機関での麻疹対応ガイドライン 第7版
(国立感染症研究所 感染症疫学センター 平成30年5月)
※福山市HP「麻しん（はしか）に気をつけましょう！」に掲載。
- 「院内麻疹に対峙する」～麻疹患者来院に由来した職員の院内麻疹発症、その対策を考える～（大阪市立大学大学院医学研究科論文より）
- “効果的かつ負担の少ない”医療・介護場面における感染対策（第87回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード資料より）
- 院内感染対策講習会Q&A（監修：社団法人日本感染症学会）